

「けやき俳句の会」会報(第二百二回)

令和二年七月

第二百二回句会記録

★日時 七月一日

★場所 紙上句会

★参加者十八名 (総数五十四句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数*印は会員特選)

⑤大寺の鴟尾が啞える梅雨の月

④長き脚ぶら下げ蜂のホバリング

②不要不急でふストレスや蛇の衣(きぬ)

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎②晩酌の趣変える青切り

◎②十万石の城下に青田風充ちて

◎①青田なか燕飛び交う低空で

⑥帆掛け走る逆さ筑波も梅雨晴間

⑤手の皺やまだまだこれから冷やし酒

④墨の香のやさし晩学虹立ちて

④夕立かな逃れし喫茶でニニ・ロツソ

②手作りの香ゆたかな杏子ジャム

②亡き母へグラスワインとさくらんぼ

②隣家から紫陽花もらひ手向けたり

②逝く友の野辺送りする春蟬の

②朝掘りの筍届く糠添えて

②重なりし葉に護られて実梅美し

①三人の子らが揃いの浴衣着て

①見詰められ負けそうになる雨蛙

③古書売るの緑蔭にひろげ女子大生

青嵐

③ピカソという薔薇に問う日々あるがまま

紀泉

③牡丹散る紅絹のひとひら置くように

東洋

③国会の質疑応答梅雨の闇

藍愛

②八十路過ぎ少し華やぐ更衣

要

②友がきの消息絶え絶え実梅落つ

要

②ざわめきの地の声聞かば夏の月

紀泉

②鶯や我に聞かせむ老を鳴く

冬水

②毬重し四葩の花々地に伏して

一華

②番傘も梅雨のドレミを奏でけり

隼人

②青き瓶並べ出窓は夏の海

藍愛

②箸置き硝子の魚夏浅し

東洋

①青葉潮泣き砂浜の泣き所

夢城

①夜盗虫寝首搔き切るおちよぼ口

夢城

①夢適う選抜校の盛夏かな

誠

①衣替夏の想い出手に取りて

誠

①濃紫陽花女坂往く山男

青嵐

①心太いたずら河童口をあけ

冬水

①庭奥に匂い立つ花走り梅雨

真弓

①自ずから背筋伸ばして菖蒲園

藍愛

①前うしろかぶりて決まる夏帽子

東洋

【次回開催】

八月五日(水)

メール句会 自由句三句

★会員互選句

④すっぴんにマスクにも慣れ青林檎

紀泉